

機械式柱主筋外定着方式による最上階 RC 造 L 形接合部の構造性能

鉄筋コンクリート骨組における最上階 L 形接合部内の柱、梁主筋定着部の納まりは、特に太径鉄筋の場合、最上階だけでなく下階の柱、梁主筋定着部の納まりにも影響するので、接合部配筋設計施工の品質保証の点で重要である。

これらより、最上階梁上端筋を機械式直線定着とし、同定着部の上部に柱主筋定着部を配置し、柱主筋定着部を定着部拘束筋で拘束するとともに、梁上端筋定着部の上部からかんざし筋を挿入する接合部配筋詳細が考案された。この配筋詳細を柱主筋外定着方式と称する。本論文では、柱主筋外定着方式による L 形接合部の構造性能を実験的に明らかにした。

本稿の成果は、(株)伊藤製鐵所、共英製鋼(株)、JFE 条鋼(株)各社の機械式定着工法の設計指針【柱主筋外定着方式編】に反映されている。

(注記)

本稿は、日本建築学会「構造系論文集」投稿論文(平成 26 年 6 月号掲載)としてまとめたものである。